

2026年
3月3日

AIを活用した多文化共修授業デザインの ための実践型FDワークショップ



報告者：大年順子（教育推進機構）

2026年3月3日、兵庫県立大学国際商経学部の方金志佳代子先生と龍谷大学経営学部の方ホワイト・ショーン先生を講師にお迎えし、多文化共修授業およびAIを活用した英語教育・COIL授業の実践的な方法についてご講演いただきました。当日は岡山大学内外から教職員・学生合わせて25名が参加し、講演後には活発な質疑応答と意見交換が行われました。本ワークショップを通して、AIを活用した言語教育および多文化共修授業設計の実践的な可能性について理解を深める貴重な機会となりました。



金志先生からは、兵庫県立大学における留学生受け入れと英語による授業(EMI)の実践を基盤とした多文化共修教育の取り組みが紹介されました。意味ある交流 (Meaningful Interaction) を促す授業設計や、日本人学生と留学生が共に生活する国際学生寮での学びなど、実践的な工夫が示されました。また、Zoomを活用した大学間連携によるオンライン協働学習の事例も紹介され、地方大学においても国際教育を実現できる可能性が示されました。



ホワイト・ショーン先生からは、生成AIを活用したCOIL (Collaborative Online International Learning) およびバーチャル交流授業の実践について紹介がありました。AIチャットボットによる事前準備、リアルタイム翻訳による交流支援、NotebookLMを用いた資料理解や振り返り活動など、多文化共修授業を支える具体的な活用例が示されました。また、学習支援の可能性とともに、学術的誠実性やデータプライバシーといった課題にも触れながら、AIを活用したCOIL授業を効果的に進めるための教育的支援の重要性が示されました。

AIと多文化共修授業が拓く新しい英語教育

ワークショップ後のアンケート（回答11名）では、多文化共修授業（国際協働学習・COIL等）の理解について全参加者が「有用」または「非常に有用」と回答。また、AIツールを言語教育に取り入れることへの自信についても9割以上が前向きな回答を示しました。自由記述でも「新しい視点を得た」「授業実践に役立つ」「非常に刺激的だった」といった声が多く寄せられ、本ワークショップがAIと多文化共修を組み合わせた教育実践への関心を高める有意義な機会となったことが示されました。

